

図1 : サン・ブナンの原理の確認。板の片側を2点で固定させ(螺による固定に相当)た場合の応力の分布。重力の向きは右側。板の長さが、固定間隔と同じ場合。

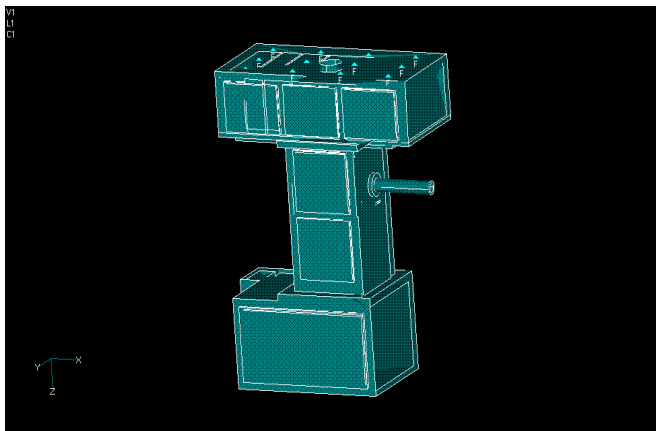
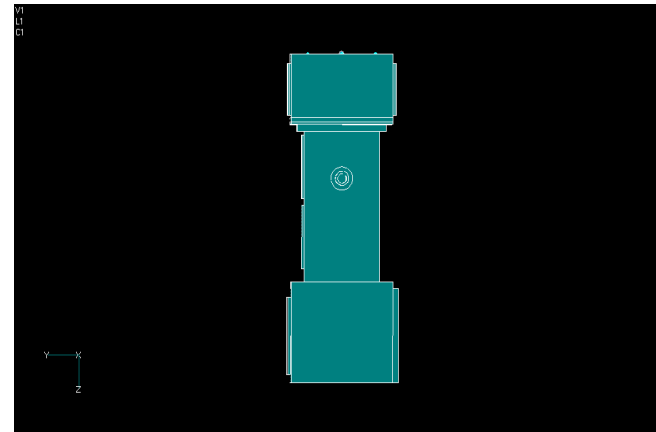
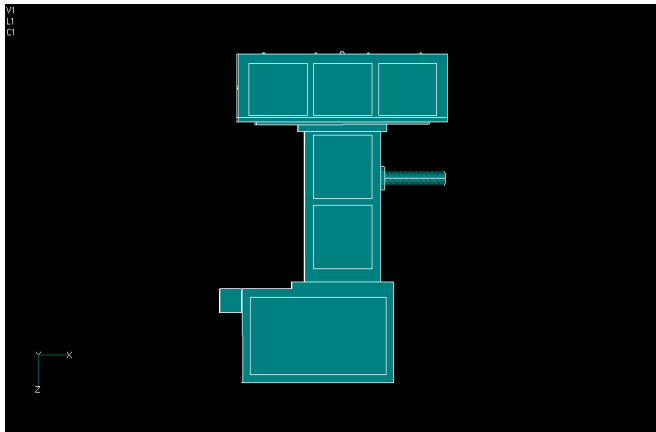


図2：解析に用いたモデル  
西から(左上)  
南から(上)  
鳥かん図(左)

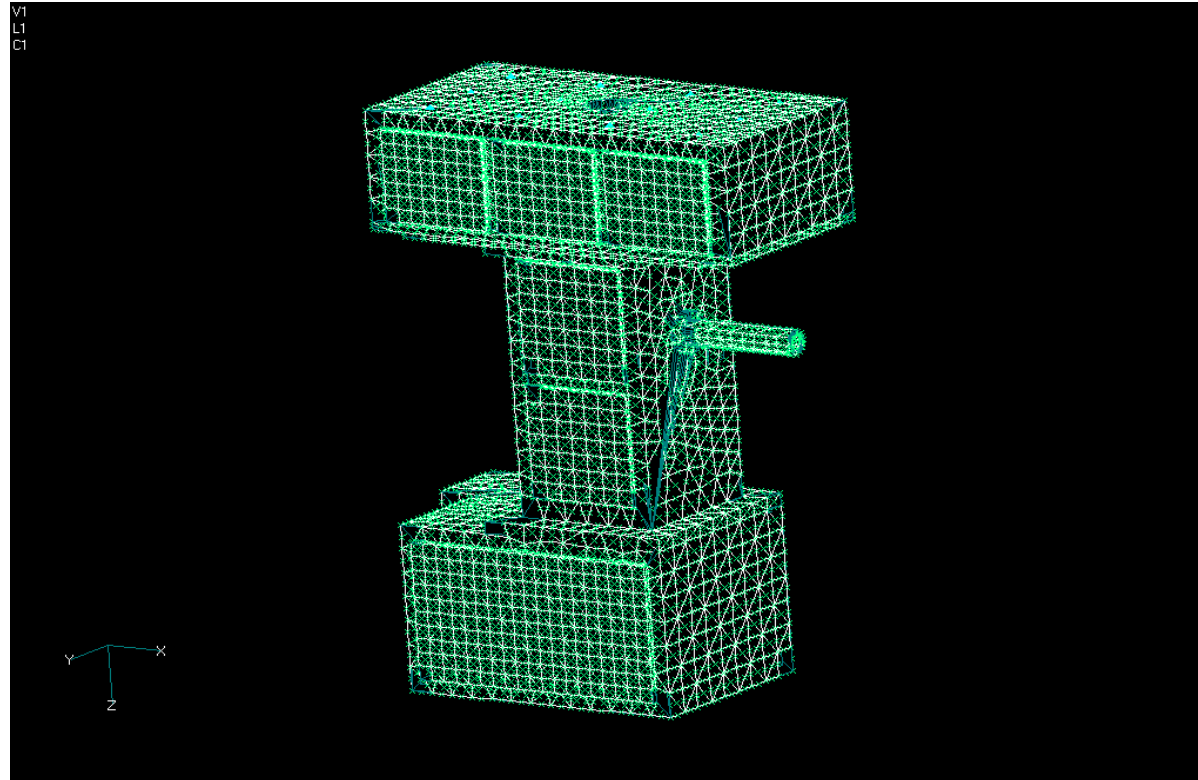


図3 : メッシュ入れたあとのモデル

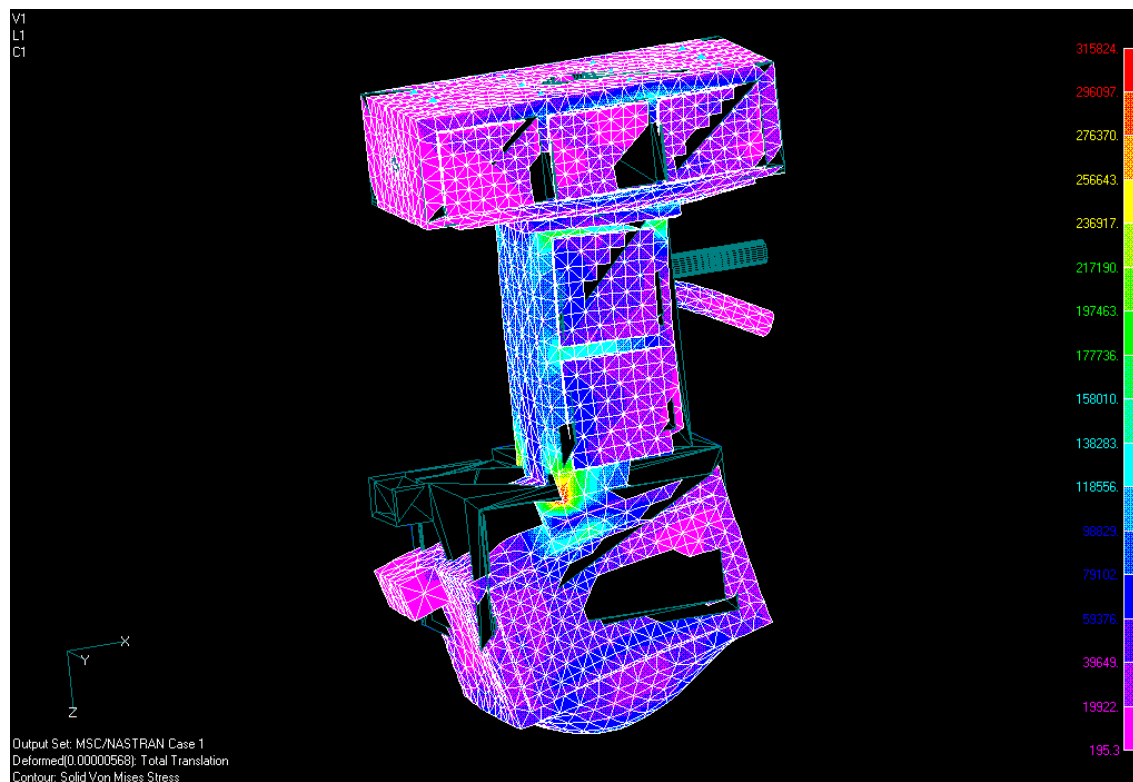


図4：望遠鏡が天頂に向いている場合のミーゼス応力（等高線）およびたわみの様子。

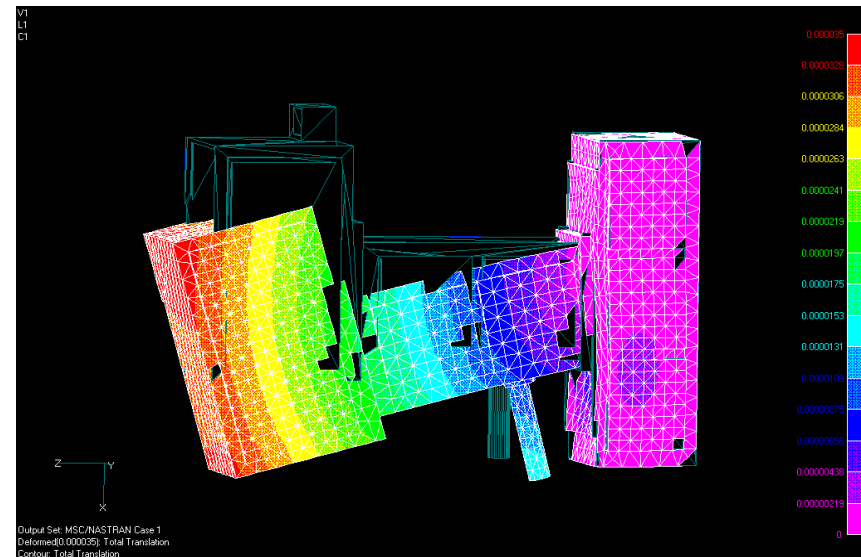
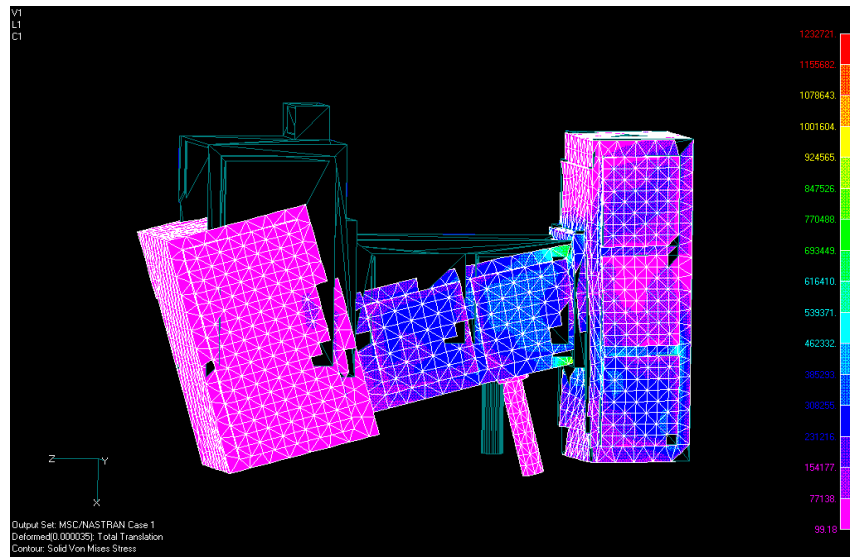


図5：望遠鏡を南側( $z=90$ 度)に向けた場合の応力分布(左)とたわみ量分布(右)。明らかに、偏光子系の較正系とのつなぎ部分の変形が大きい(大きな応力が生じている)。

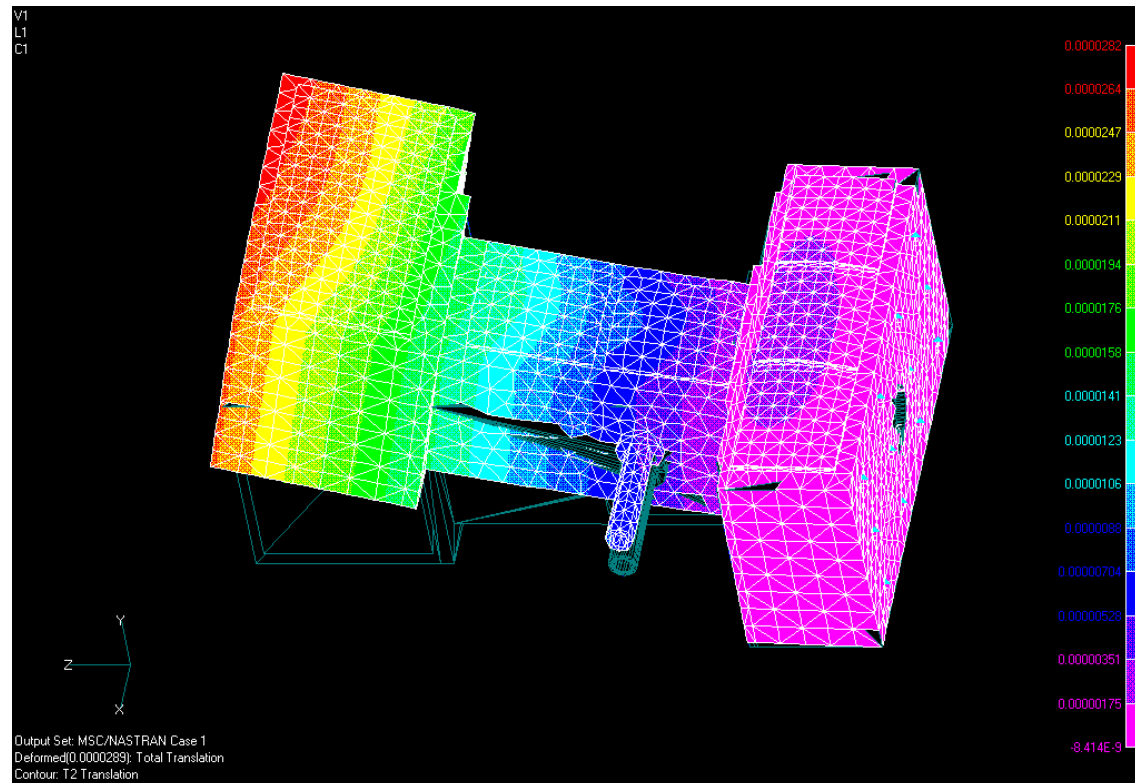


図6：望遠鏡を西(東)側( $Z=90$ 度)に向けたときのたわみの鉛直方向成分分布。分光器系の根元から先端にかけてトルクによる回転変形が生じているのが分かる。

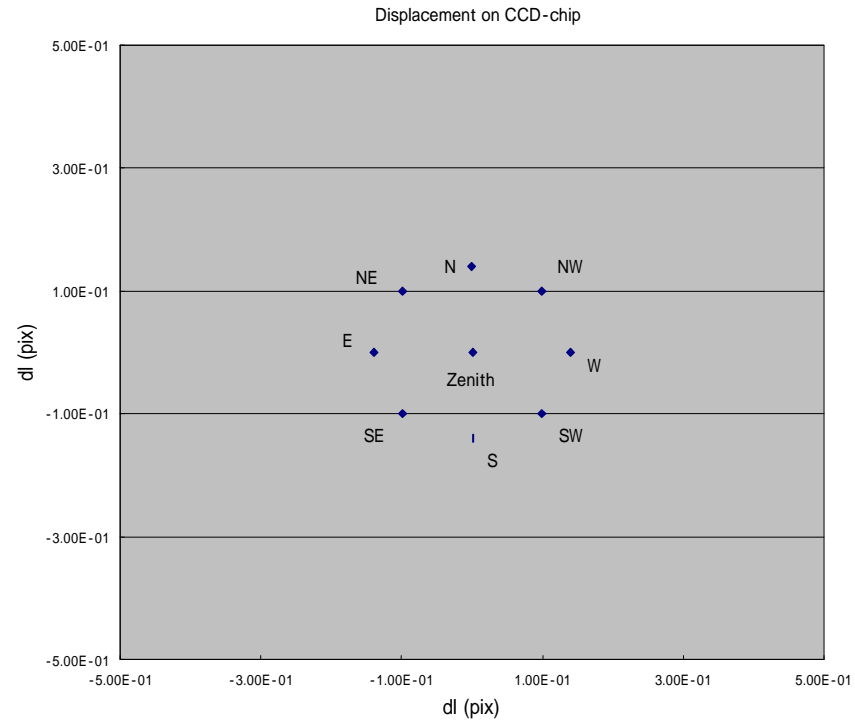


図7：姿勢差による検出器上での像の移動。  
 グラフの大きさが1 pixに対応する。